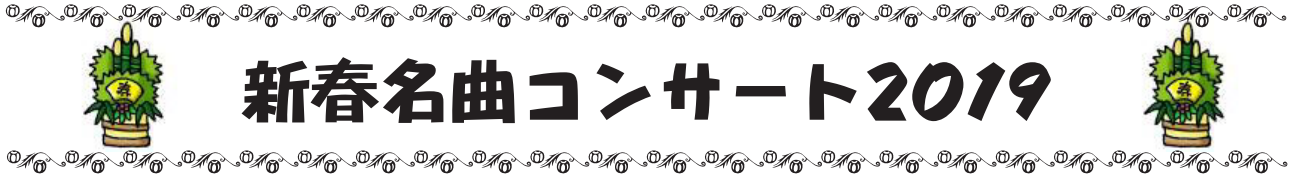


2019.1.19



新春名曲コンサート2019

プログラム

2019年新年最初のCDコンサートは、新春名曲コンサートでスタートです。今年のニューイヤーコンサートは初登場のティーレマンでした。その中からシュトラウス一家の名曲を2曲、ジプシー部族を舞台としたウィーン風の情緒とエキゾチックな雰囲気うまく融合された傑作オペレッタ「ジプシー男爵」の序曲、医学生達の舞踏会のために作曲されたと言われるヨーゼフの代表作「天体の音楽」をお聴きいただきます。ベルリン・フィルによる映画音楽はいずれもよく知られた名曲ばかり。モロスは交響曲や弦楽四重奏曲、ハンガリー出身のローザはハイフェッツのために書かれたヴァイオリン協奏曲が有名で、ジョン・ウィリアムズにもフルート協奏曲等があり純音楽の分野でも作品を残している作曲家達です。1924年に作曲されたガーシュインの「ラプソディ・イン・ブルー」はピアノ協奏曲風の要素を持ちながらジャズの手法をふんだんに盛り込んだ「シンフォニック・ジャズ」の傑作。今日はわが国を代表するジャズ・ピアニスト、小曾根真のピアノとアメリカの名指揮者スラトキン指揮デトロイト響との共演です。「五色ひわ」はヴィヴァルディの最もよく知られたフルート協奏曲のひとつですが、今日は名手ランパルと昨年亡くなったイタリアの名指揮者クラウディオ・シモーネ(1934~2018)の指揮で、バッハの名曲はピアノ版でお聴きください。エストニアの作曲家スメラの美しいワルツは映画のために書かれた佳曲。最後は新春にふさわしいシューマンの名曲、交響曲第1番「春」で締めくくりたいと思います。本年もよろしく御願ひ致します。

ヨハン・シュトラウス二世 (1825~1899):
喜歌劇「ジプシー男爵」序曲

ヨーゼフ・シュトラウス (1827~1870):
ワルツ「天体の音楽」op.235

クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2019.1.1 ウィーン・ムジークフェラインサールでの生Live ~ニューイヤーコンサートより~)

ジェローム・モロス (1913~1983):
「大いなる西部」のテーマ (1958年アメリカ映画)

ミクロス・ローザ (1907~1995):
「ベン・ハー」序曲 (1959年アメリカ映画)

ジョン・ウィリアムズ (1932~):
「レイダース/失われたアーク」~レイダース・マーチ (1981年アメリカ映画)
サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2015.6.28 ベルリン郊外、ワルトビューネでのLive)

ジョージ・ガーシュイン (1898~1937):
ラプソディ・イン・ブルー
小曾根真(P)/レナード・スラトキン指揮デトロイト交響楽団
(2017.7.17 文京シビックホールでのLive)

*** 休憩 ***

アントニオ・ヴィヴァルディ (1678~1741):
フルート協奏曲第3番二長調「五色ひわ」
ジャン・ピエール・ランパル(fl)/クラウディオ・シモーネ指揮イ・ソリスティ・ヴェネティ合奏団
(1974.7.31 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750)
「主よ人の望みの喜びよ」(カンタータ第147番から)(ピアノ編曲版)
アレクシス・ワイセンベルク(P) (1973.10.30 東京文化会館大ホールでのLive)

レボ・スメラ (1950~2000):
スプリング・フライ~ワルツ (1986年の映画)
パーヴォ・ヤルヴィ指揮エストニア祝祭管弦楽団 (2018.8.8 パルヌ・コンサートホールでのLive)

ロベルト・シューマン (1810~1856):
交響曲第1番変ロ長調「春」op.38
スタニスラフ・スクロヴァチエフスキ指揮サールブリュッケン放送交響楽団
(2007.3.25 サールブリュッケン、コングレスハレ大ホールでのLive)

★ホームページアドレス <http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/>